

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174200723
法人名	社会福祉法人 神流福祉会
事業所名	グループホームわたど
所在地	〒367-0301 埼玉県児玉郡神川町渡瀬1024-3 (電話) 0274-20-3355

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月27日

【情報提供票より】(平成20年9月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算	10.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,900 円	その他の経費(月額)	約25,500円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日あたり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤岡市国民健康保険 鬼石病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、山々に囲まれたのどかな田園の中に建てられ、すぐ近くには水辺公園があり、天気の良い日には日課のように散歩に出かけている。地域とのつながりも良く、神社のお祭りや小学校の運動会などに招待されて行き来している。ホームを訪れる児童とは、一緒に折り紙やゲームをして楽しい一時を過ごしながら親睦を深めている。また、地域の農家からは採りたての野菜を頂くこともあり、食卓に彩りを添えている。ケア計画も毎月見直しされ利用者にあった支援が提供されているので、身体的な面においても機能低下予防につながっている。法人で多様な福祉サービスを実施しているため、利用者にとって心強く、安心した日常生活が送られているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では幾つか改善点が挙げられているが、そのうちの一つであるアセスメントに関する改善状況は、独自に考えたケアチェック要約表を使用し、アセスメントの在り方を改善している。なお、他の項目については、徐々にではあるが問題点を検討して改善に向けて取りかかろうとしている状況である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>月1回開かれている定例会・ミーティングの席で全職員で話し合いをしており、意見を出し合った上で管理者が全体をまとめている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>現在でも6か月に1回、利用者、家族、地域包括支援センター職員、神流福祉会理事及び理事長、管理者、看護師、職員で構成された運営推進会議が開催されている。しかし、ホーム側からの報告事項が多く、実施回数が少ないため会議の意義が理解されていない部分もあり、十分な話し合いや意見が出されていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会が設置されていないこともあり、面会時にホームの日常的な様子を家族に伝えるとともに、ホームに対する意見や苦情などを聞いている。面会数の少ない家族には電話で連絡し同様の支援をしているが、今のところ苦情等はなく、不安等については原因を把握し即対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の神社の獅子舞見学や小学校の運動会を見に行ったり、小学生がホームを訪問してゲームや折り紙をしながら交流を図っている。また、法人全施設で行う花見には地域の方を招待し、昼食を一緒にして楽しんでいる。避難訓練等においても地元の協力を得て毎年行われている。時には地域の方が採りたての野菜を届けてくれたりと、地域社会に溶け込んだ日常生活が送られている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の文言は長い文章のものが4カ条掲げられているが、その内容は地域の特性が活かされ、地域の中で安心して暮らしていけるものになっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回定期的に開かれている定例会の中で、職員は理念を読み上げて内容を理解し、より一層良いケアにするにはどうしたらよいか検討して、日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校と交流が多く、星祭り、運動会、送別会などに招待を受けている他、ホームに訪問してもらい、お手玉、折り紙、肩たたき等を一緒にして楽しいひと時を過ごしている。また、周辺に農家が多く、収穫時には季節の野菜などを頂いている。年2回行われる神社の獅子舞などにも見学に出かけるなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については定例会時に話し合い、管理者が中心になりまとめられている。前回評価の改善点は少しずつではあるが改善に向けて取り組んでいる。		全職員で話し合っているが、外部評価の意義が十分に理解されていない部分もあるため、今後の取り組みに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6か月に1回、管理者、職員、利用者、神流福祉会理事、家族、地域包括支援センター職員等のメンバーの参加を得て開催されているが、会議の内容は、食事内容、事業報告、一日の流れなどの報告事にとどまっている。		ホーム側からの報告だけではなく、ホームをより一層良くするための運営面や地域に根ざす上で必要な改善点等について率直な意見を出してもらい検討することを期待したい。なお、会議は2か月に1回を目標に開催されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近いうちに共用型の通所介護を開設することもあり、町担当者とは頻繁に行き来しており、ホームについてのアドバイスのほか、指導や相談に乗ってもらいながら連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当職員が記入した利用者一人ひとりの様子を個人便りとして月1回請求書と一緒に送付している。また、職員の異動についても掲載している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した時などは話しやすい雰囲気を作ったり、ホーム側からも細かい日常的な出来事を伝えている。家族から表出された意見等に対しては、即対応に徹して反映に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動などは極力しないようにしているが、異動や退職があった場合は、利用者に説明や挨拶をして理解していただいている。新任者については、管理者をはじめ周りの職員でフォローしながら早く馴染んでいただけるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ケアマネージャー連絡会があり参加している。また、月1回法人の親睦会兼主任会議を実施し、会議内容等を持ちかえり定例会時に報告したり、現場で必要なことについて看護師を中心に学習している。日常的に起きる疑問点については、そのつど皆で話し合い解決し支援に活かしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は、地域の同業者と交流して情報収集や現場の対応を学びたい意向をもっているが、今のところ実現していない。		沢山のホームがある地域であるため、地域に密着した支援や現場での対応等について意見交換し、ホームに持ちかえり伝達することが期待される。また、グループホーム協議会に加入して順次研修に参加することで同業者と顔見知りになるなど、ネットワークづくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族が見学に来た時に面接し、生活歴や趣味、現在の状況などの聞きとりをしている。また、出来る限り家庭を訪問し、日常生活を送っていた環境について分かる範囲で見たり聞いたりして、利用前の雰囲気を大切に、家族とも相談しながら支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に寄り添い、将棋、塗り絵、折り紙などを職員と一緒に楽しみながらしている。また、行事食の作り方、餅つき、饅頭、漬物、つるし柿の作り方など得意とする利用者から教えていただくこともあり、共に支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意向を把握するために、共に過ごす時間を大切にしている。利用者の希望に応じて買い物やドライブに一緒に行ったり、公園の散歩や調理をしながらコミュニケーションを図っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所判定時にはADL調査表でチェックし、全体会議で情報交換している。フロアリーダーがケアチェック要約表に記入したものに基づき、定例会で個々の評価、見直し、カンファレンス、モニタリングをして介護計画が作られている。全利用者に対して実施しているので、全職員が同じ情報を共有している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直し前に身体や精神状況の変化等が生じた際には、利用者、家族、スタッフ、関係機関で連絡をとり即見直しされ、介護計画の変更がされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1か月に1度提携医が診察に来ているが、他の病院に受診しなければならないような時や、近所の理美容院に行きたい時など、本人の状況に応じて職員が付き添い柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に1度、指定病院の主治医が来ている。入居前の主治医にかかる場合、地域の病院であれば職員と一緒に受診することもある。また、常勤職員の中に看護師がいるので、医療面の相談ごとや対応は心強い。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議の時に家族の意見を聞いている。当ホームの系列施設に、介護老人福祉施設、介護老人保健施設などがあるため、身体状況の変化やADLの低下等がみられた場合は、主治医と相談して他の施設に移ることが制度化されている。また、定例会時には終末期ケアについて話し合っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを大切にケアを心がけている。入浴時や排泄時に介助が必要な場合は職員が付いていくが、最小限のところで支援し、一人ひとりのプライバシーを損ねることのないよう対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な決まりごとはなく、散歩に行きたい方は散歩、テレビを見たい方はテレビを観るなどして、利用者一人ひとりの意向を尊重し、その方のペースでゆっくりと過ごしていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを利用者と職員が一緒にしている。利用者の誕生日には、事前に何が食べたいか希望を聞いた上で用意したものを全員で食している。また、行事食なども取り入れて季節感が出るように工夫するなど、食事が楽しいものとなるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴日があるが、利用者の希望があれば毎日でも入浴可能である。また、時間についても希望がかなえられるように努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことや生活歴等を活かしたレクリエーションのメニュー等を皆で考えている。また、洗濯物の整理、調理の手伝い、後片付け等役割を分担し、日中は雨の日を除き外気浴をして気晴らしの支援をしている。年2回の日帰り温泉やクリスマス会、花見、納涼祭、芝居、マジックショー等の楽しみごとを取り入れている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭先にミニ家庭菜園を作り、職員と一緒に手入れをして、今は葉物の芽が出ていて収穫時を楽しみにしている。雨の日以外は、近くの公園に外気浴を兼ねて毎日散歩に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはベルが取り付けられており、外に出ようとした時には分かるようになっている。職員は利用者を見守り、外出したい様子を察した際は一緒に付き添うように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は年2回消防署の協力を得て実施している。また、夜間を想定した訓練も行っている。避難場所に近くの駐車場を借りたり、利用者の服薬もすぐに持ち出せるように1か所にまとめて準備している。役割分担やマニュアルも作成され、近所の方にも協力依頼して承諾を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常の日常生活の中では記録されていないが、水分は1日6回摂り、1400キロカロリーを基本に考えている。体調不良や持病のある方には食した記録をとり、受診時に見せている。食事形態については、普通食、半刻み食、刻み食と区分して工夫しながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは広く自然光を取り入れているため、やわらかく温かみのある空間となっている。浴室も窓が低く森林を眺めながら入浴できる。フロアのテーブルには、散歩時にとってきた草花が何気なく活けられ、季節を感じることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していた整理タンスや椅子が持ち込まれ、利用者が使いやすく配置されている。植木鉢や草花も置かれ季節感が感じられ、各居室は窓が大きくとられ、開ければ緑や紅葉の樹木が目に入り、落ち着ける雰囲気になっている。また、和室、洋室と好みの部屋が選べる。		